

平成30年度学校関係者評価について（報告）

学校評議委員会

第2回学校評議委員会（2/18）において、評議員の方々並びに粕谷PTA会長より、以下のような提言や質問、感想をいただきました。改善方策や次年度の目標等の設定に活用していきます。（抜粋または一部省略）

項目	提言・質問・感想等
児童生徒指導部	<p>・子ども達のスマートフォン所持と利用の仕方の把握をどうしているのか伺いたい。</p> <p><学校から>・高等部生徒のスマホや携帯電話の所持率は高くなっている。学校に持ってくるためには、許可制になっているので許可願いを提出する。電話やメールアドレス等は学校で把握している。主な使用は、自力通学者が登下校時に不測の事態の発生（電車の遅延、トラブルなど）した時の連絡手段としての使用などである。しかし友達同士でLINEのグループを作りトラブルなどがある場合は指導している。外部や関係のない人とのトラブルはない。また、業者などの専門的知識のある方を講師に招いて勉強会を行っている。家庭での使い方や使用による生活の乱れには心配がある。</p> <p>・保護者より許可願いが提出される際に、フィルタリングがかけられているかを学校として確認してから許可を出している。</p> <hr/> <p>・いじめに関するアンケートは子ども達を対象としているのか。保護者を対象にしているのか。どのような形で実施しているのか。</p> <p><学校から>・アンケートの質問については、児童生徒に分かりやすいようにイラスト等を用いるなど発達段階に合わせた工夫をしている。生徒にも保護者にも実施している。教育相談週間を設けたり、常時、相談箱を設置したりしている。その中で挙がってきたものを担当が聞き取りいじめかどうかの判断を行っている。</p> <p>・いじめに関するアンケートの結果として、本校はいじめゼロとなっている。</p> <p>・いじめについてはどの学校でも起こりうるものと意識して対応していかなければならない。県でも危機意識を持っている。児童生徒の毎日の様子を把握することから変化が分かることもある。情報を早期に共有し、対応することが大切であると思う。</p>
進路指導部	<p>・学校課題研究の高等部の説明の中の、産業現場等における実習での「休憩時間の過ごし方」については、常日頃から施設としても感じているところである。何をしても良いのか、指示がないと不安を感じる子も多い。特に環境が変わるとそれが多いためと思われる。</p> <p><学校から>・企業でよく言われることは「次の仕事を集中してやれるように、休憩時間はしっかり休んで欲しい」ということである。休憩時間の取り方は「一人でいたい人」「話しをしたい人」と人それぞれなため、個々の特性に合った休憩時間の取り方を繰り返し実習の中で会社と確認をし、休憩の過ごし方を把握してもらっている。</p> <hr/> <p>・近場の施設をどんどん利用して欲しい。大和久学園の利用はどうなっているのか。</p> <p><学校から>・実習先については、生徒と保護者の希望を受けて決定している。今年度については、生徒の居住地区に偏りがあり那須烏山市在住の生徒が少なく、大和久学園の利用がなかった。</p> <p>・PTA支部会では大和久福祉まつりに南那須支部が参加し、学園生との交流を深めることができた。</p>

<p>進路指導部</p>	<p>・企業が本校の通学圏に少ない中、これだけの実習先を開拓されているということは、先生方の働きがすばらしいと感じている。次の2点について伺いたい。①実習と就職先の結びつきはどうなっているのか。②県でも障害者雇用率の過大評価が話題になったが、実習先企業の雇用率はどのようになっているのか。</p> <p><学校から>・実習先を選ぶ状況では雇用率は気にしていない。ただし雇用する意識があるかどうかは聞いてから実習先としている。特に3年生については雇用について十分に確認するようにしている。生徒が「会社に行きたい」となったら、雇用率を気にして雇用率の低いところをピックアップしている。ハローワークと連携して雇用率を確認している。</p> <p>・本校小学部1年より入学し12年間学んできた生徒が就労の方向で進路が決定している。高等部の課程Ⅱで学んでいる生徒である。生徒の発達段階に応じた指導や、多くの人の理解と支えがあっただけだと思っている。</p> <hr/> <p>・実習先として一般事業所が多くあげられている。これまでになるには大変な苦勞をされたのではないかと感じる。就労については、卒業後すぐに就職ではなく、福祉サービス事業所の就労移行支援からつながる話しも多いと聞いている。本校の課題としてあげられている交通手段の部分は、課題ではあるが改善しづらいところと感じている。</p>
<p>渉外部</p>	<p>・「PTA活動に不安を感じる」という意見が出ている。保護者の方にPTAについて共通認識を持てるように話しをしながら、活動に参加しやすいPTAとなるように次年度も心掛けて取り組んでいきたい。</p>
<p>情報部</p>	<p>・USBの管理については、自分たちの施設でも、この方法を取り入れていきたいと思った。</p>
<p>学校評価アンケート</p>	<p>・よくやられているという印象を受けている。高等部の保護者の意見としてあげられている乱暴な言葉遣いや命令口調、「さん」づけなどについては、施設職員としての経験から、お互いの今までの関係性や積み重ねがあつた言葉であり、第三者が見る見方と違う部分がある。非常に難しい部分であると思っている。自分の経験からも30年以上つきあっている利用者さんに「さん」を付けて呼ぶのが非常に難しかった。どのようにすると良いということは、分からない。</p> <p><学校から>・人と人の時間をかけて積み重ねてきた関係の部分は他人からは見えにくい部分である。これからのことを期待して、関わっている人の意見や、目標などのねらいを明確にして指導していることを保護者や地域に伝える。学校としてPRすることが大切だと思う。情報を伝えていくことが次年度からも課題と思われる。</p> <hr/> <p>・保護者のA評価が増えているのが分かるが、教職員評価のBが増えていることが気になる。教員が自信をもって保護者に話しをしていくことが大切だと思う。教員が保護者に会ったときに言葉で伝えていくことが有効な方法だと思う。</p> <hr/> <p>・教職員の意識が高いため、教員の評価でAがつけづらく、頑張っているでもう少しと考えてBとなっていることが多いのではないかと感じる。</p>
<p>その他</p>	<p>・学校課題研究はPDCAサイクルの「A」の部分が良くできていると感じた。</p>